派遣先所属　　岩手県宮古児童相談所　　氏名　青木　美奈子（あおき　みなこ）
派遣期間　　平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

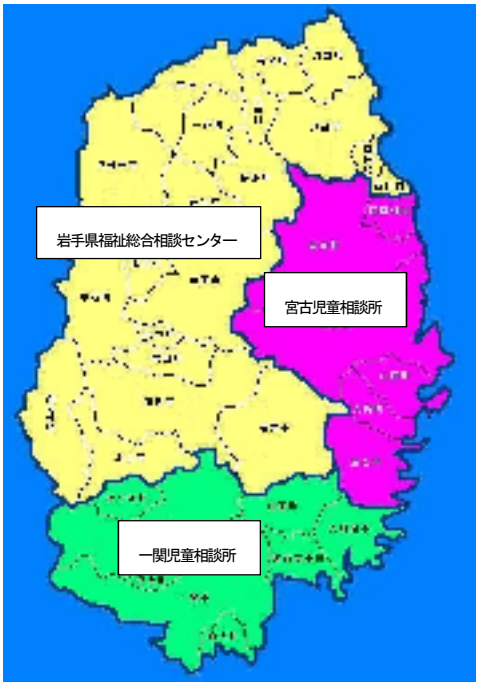
## 1　派遣業務の内容、現況

派遣先の宮古児童相談所では、子どもに関するさまざまな相談を受けています。管轄区域は沿岸部の 6 市町村（田野畑村・岩泉町・宮古市・山田町・大槌町・釜石市）で、東日本大震災では管内全ての市町村が津波被害を受けました。

私の主な担当業務は里親支援で、同じく派遣で来ている長崎県職員と分担して行っています。

管内では、今回の震災によって両親を失った孤児が 55 人、両親のうちどちらか 1 人を亡くした遺児が 248 人確認されました（発災当時）。

孤児や遺児となった子どもたちは親族に引き取られ、孤児に関しては児童相談所、遺児に関しては県振興局が支援にあたっています。孤児を引き取った親族には里親になってもらい、児童相談所が長期的にサポートする体制をとっています。



【岩手県児童相談所の管轄区域】

震災から 2 年半が経過し、経済的な支援や未成年後見人の選定など、子どもたちの生活を安定させる制度は着々と整えられてきました。しかし一方で、新たな問題が発生していることも事実です。

高齢の祖父母が里親となった場合、自身の健康面や、思春期を迎えた子どもへの対応に不安を抱くケースが多々あります。震災直後は皆が助け合って生活していても、それが長期間にわたれば負担は大きくなります。また、引き取られた親族とうまく関係が築けず、居心地の悪さを感じている子どももいます。

震災で親を亡くした子どもの心の傷は計り知れないものがありますが、大事な人を亡くしたという点では里親も同じ傷を抱えています。児童相談所は子どもに対する支援だけでなく、里親へのフォローも求められています。そしてそれは子どもたちが自立するまで、長期間の関わりが必要です。

岩手県沿岸部では、孤児を養育している里親を対象としたサロンが各地で開催されています。里親同士で悩みを共有し、経験豊かな里親のアドバイスを聞いて負担を軽減することが目的です。

また、さまざまな支援団体と協力してサロンを開催している市町村もあります。県内にあるNPOの協力を得て、アメリカ同時多発テロ家族会と交流の場を設けたサロンもありました。テロと自然災害で原因は違っても、大切な人を突然失った遺族という立場は同じであり、国境を越えて悲しみをわかちあう場となりました。

【同時多発テロ家族会から贈られた折り鶴のTシャツ】

## 2　復旧･復興状況や被災地での見聞・感想

沿岸部には、子どもたちのために奔走している支援者が数多くいます。支援者自身が被災していることも珍しくありません。大切な人や大事なもの、今まで築き上げてきた生活を失い、それでも子どもたちのために尽力している関係者の方々には頭が下がります。

震災から2年半が経過した今なお、沿岸部では津波の爪痕が大きく残っています。何人もの知人を被災地に案内しましたが、現場を見て皆一様に言葉を失います。被災された方から「取り残されているような気がする」という言葉を聞きますが、世間の関心が徐々に薄れていることに対し危機感を抱いている印象を受けます。

首都圏では震災関連の報道がどんどん減っていますが、被災地では未だに課題が山積しています。震災を過去のものとせず、復興に向けて何ができるのかを改めて見直す必要があると思います。

【旧大槌町役場】